

平成 26 年 10 月 3 日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会  
第 12 回理事会議事録

日 時	平成 26 年 10 月 2 日 11:45~12:50
場 所	仙台国際センター 控室 5、6 (仙台市青葉区 仙台国際センター 2 階)
出席者	(本人出席) 浅井理事長、清水副理事長、川島理事、藤理事、水野理事、岩崎理事、大林理事、小森理事、ホートン理事、奥村理事、瀬々理事、美宅理事、荻島理事、木下理事、五斗理事、白井理事、中尾理事 (表決書提出) 坂田理事、門田理事、渋谷理事、関嶋理事 (オブザーバ) 水谷 (事務局、書記) 以上 21 名出席扱

議長 浅井理事長 (定款第 35 条による)

配布資料

- 議案書
- 第1回企画委員会議事録
- 第2回企画委員会議事録
- 企画委員会ポスター(企画委員会からの報告と来年度年会のご案内)

議事

(審議事項)

- 第一号議案 幹事の選任について  
全会一致により承認された。

(報告・審議事項)

- 理事の担当の指名について(浅井)

・理事の担当

広報 八谷

連携 荻島

若手 岩崎

年会(2014) 木下

年会(2015) 五斗(理事会で承認済み)

・現在の幹事

男女共同参画 油谷

ニュースレター 岩崎

GenomeInfmatics 佐藤

認定試験 白井

ISMB ホートン

・新幹事

研究会 有田

渉外 松田

・その他必要な幹事はあるか？

清水佳奈氏が ISCB のアフィリエイトになっている。JSBi の代表ということなので、現在、幹事ではないのは問題。清水氏が帰国次第、連絡したい(浅井)。

・活性化 WG からの提案(川島)

賞担当幹事をおく

若手賞に加えてシニア賞を作った方が良いという議論もあるが、検討を進めるためには担当幹事が必要(岩崎)

その方向で、人選を含めて検討する。

・将来的な幹事会の形について議論してほしい(浅井)

現在の理事会とは別に、執行部としての幹事会が必要ではないかとの提案があり、理事会への幹事の出席や、幹事会を理事会とは別に開催するべきか、副会長を次期会長と明確に位置づけるか、その場合は別途幹事長が必要かなどの議論がなされた。これらについては WG レベルではなく企画委員会の枠組みで議論はどうかと木下理事から提案があり、今後メール審議によって理事会の承認を得る事となった。

将来的にはきちんとしたガバナンスの体制を作りたい(浅井)

### 3. 企画委員会報告(清水)

・設置目的、組織、活動内容についての説明

課題ごとのワーキンググループを設置した。ワーキンググループでの議論を受けて、企画委員会に提案をあげ、企画委員会の提案として理事会に諮ったり、あるいは直接、担当幹事に働きかけたりする。

中、長期的な課題のみでなく短期的な課題も機動性を持って取り組む。

来年の 3 月までに最終的な提案を行う。

各 WG について、担当幹事より報告

・活性化 WG(川島)

他 WG の提案と比較して、やや曖昧な(すぐに結論が出ない)課題が多いが、具体的な課題は、年会 WG、人材養成 WG に提示し、他の WG と重複した議論にならないように注意する。

地域部会について

担当幹事などが地域部会の催しを見学するようなことを一定期間やってみることを提案する。

そのための地域部会の催しの見学費用は負担できるか？

支出に問題はないが、予算には限界はある。担当幹事の報告を聞いて、議論するようにしたい。(浅井)

研究会担当、地域部会担当が何をするかをきちんと伝える必要がある。

地域部会と年会、総会との関連が薄い。

## GenomeInfomatics 誌について

GIW の Proceeding ではなくなってからは、休眠状態である。積極的に残すのか、やめるのか？

投稿数を増やすのに、一般からの投稿を受け付ける方法がある（木下）無駄に雑誌数を増やしても意味がない。他の雑誌のことも考慮し検討してはどうか（瀬々）

Pubmed にインデックスされるのは重要（木下）

自由に投稿できる雑誌として、門戸を開いた方が良い（浅井）

IF がついていないのが問題（川島）

SIG-bio のように他誌で落ちた論文の受け皿的な役割もありうる。だが、Pubmed には載らない

受け皿的になるとレベルは下がる。日本動物学会のように最低限の英文チェックは必要（川島）

活性化 WG でサポートする方向で継続審議する。

## NGS 現場の会の特別後援について（岩崎）

NGS 現場の会第四回研究会において、JSBi の冠セッションを設けるとともに、研究会会計を JSBi の決算報告に組み入れる形での事務的なサポートを得たい。

例外でも良いので、具体的に強く望むサポートは何か？予算？人材？時間？（川島）

NPO 法人として、任意団体の後援体制をはつきりさせる必要がある（瀬々）

すでに特別後援という提案があり、NPO 側で問題がなければ、そのようにしたい。

JSBi の事業内容には合致する。

税金逃れの指摘のリスクは避けなければならない。JSBi としては、そのことに注意しながら、基本的には前向きに進める。岩崎理事の方で対応してもらいたい（浅井）

メール審議のルールを決める必要がある。途中で終わってしまう議論は避けたい（木下）

理事会の審議事項は定款に従っている。

それ以外のメール審議についてもメール審議のシステムを確立する。決議が必要な議題は期日を切る。メール審議の細則を決めるべき。事務局から提案するので、それについて理事会で議論していただきたい。メール審議でも、動議を出し、それに対して議論し、結論を出すという過程に乗っ取って行うようとする。（浅井）

事務局が必ずサマリーを作成する（木下）

## ・人材養成 WG（白井）

人材養成、アウトリーチ活動、教育についての提案を行う。

講習会、勉強会を活用する。すでに行われているものがあるが、そういうものに協力する。若手会員、女性会員を増やすことも重要。

社会に対しては、ニュースレター等を使って、積極的に情報発信する。

## 認定試験の今後について

以前も藤先生が担当した WG で議論が行われていた。それを受けて議論が継続中

人材養成事業の中での認定試験の位置づけを考えるのか、先に、認定試験の継続、打ち切りを審議するのか、WG での結論は出ていない。

メリット・デメリットとともに基本的には藤先生時代のWGから内容は大きくは変わっていない(白井)  
WGの報告(メリット、デメリット)を考慮した上でメール審議としてはどうか(藤)  
今の形の試験を続けるのか、打ち切るのかはやく決めた方が良い(白井)  
新しい形の提案が先ではないか(木下)  
認定を出している以上は学会として継続する義務があると実施担当者の立場から考える。7年間で受験者は約1000人。認定者は600名以上、これは本学会員より多い(白井)  
継続議論をして、来年3月を期限として決定する(浅井、藤)  
WGとして、現行のまま、リニューアル、または打ち切りの提案をあげて、来年3月に決定(白井)  
試験の内容や形態は大きく変わっても構わない。この事業の継続・継承型を示す事が必要(白井)  
理事の方々には、認定試験の将来に対して、全員ぜひ意見を出していただきたい(清水)  
リニューアルに対してアイディアをぜひ出していただきたい(白井)

関連して、HPに意見募集ページを設ける(清水)

HP WGを立ち上げる(清水)

ホームページ担当は別に置くが、広報担当の八谷理事と相談(浅井)

中尾理事が立候補(興味があるが、一人では無理)

実動する人は別に割り当てる。

人選を進める

・年会WGについては後の審議事項4で行う

#### 4. 年会(五斗)

・2015年度 京大、宇治キャンパス

オミクス学会との共催は承認待ち

参加費等は決定次第、理事会承認を得る

今年は医療系セッションが多かったが、微生物系など周辺分野を取り込む

・2年前の4月までに年会長を決定する

2016年度 年会長 濑々理事、お台場付近を予定

2年前の年会までに年会長を決定するというように年会開催規定を変えることを提案

あまり厳しくしすぎて首を絞めるようなことは避けたいが、この件は変えることが適當。問題があれば見直せばよい(浅井)

次年度の年会準備委員会と連携して進める

他学会年会との連携などを考慮すると1年前では遅い(岩崎)

・年会の公用語について

原則として英語(年会規定 第3条)の改定を提案

賛成する、日本語セッションがやりやすくなる(川島)

BiWo での日本語セッション、企業人向けに良い(藤)  
他学会とのセッションも作りやすく、周辺分野からの参加を呼び込みやすくなる効果もある(岩崎)  
年会長の裁量(浅井)  
「公用語」の解釈の問題  
コミュニケーションが基本なので、柔軟な解釈で良い(ホートン)  
学生が参加しやすいので賛成(白井)  
異分野とのコミュニケーションに壁があつてはいけない(木下)

・年会長の指名時期と公用語については年会開催既定の改正ということで、メール審議を行いたいので、年会WG で文案を作成していただきたい(浅井)

・年会のときに全会員が参加できる総会をやる(浅井)  
会計年度と法律の関係で、この時期に行つても何も決議することがないという状況  
臨時総会など、総会に代わる全員のミーティングをやる  
会計についても、決議でなくても報告の意味がある。  
他の学会でもやっている。  
年会長が忘れることがないよう、年会開催規定などに明記する方向で進めてはどうか

#### ※その他

・年会長挨拶(木下)  
各ブースをぜひ回ってください。

・今回の年会の準備に関わられた方々に感謝いたします(浅井)

審議は以上、12:50 に理事会は終了した。

#### 議事録署名人の選定

瀬々理事と岩崎理事が指名され、全員が承諾した。

上記の議論を明確にするため、議長及び議事録署名人において次に記名押印する。

平成 26 年 10 月 3 日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

議長 滝沢 勝  
議事録署名人 瀬々 利潤  
同 岩崎 浩司